

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 南丹市社会福祉協議会	代表者	田中 博	法人・ 事業所 の特徴	すべての住民のこころが輝く福祉のまちづくり 支援が必要になった時でも、住み慣れた自宅や地域の中で家族や親しい人たちと共に その人らしい生活が送れるように「通い」「訪問」「宿泊」のサービスを一つの事業所で 一括提供し、自宅での生活を支えるサービスを行っている。
事業所名	小規模多機能ホーム だんない	管理者	太田 えり子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他(課長、部長)	合計
	1人	1人	3人	0(入院)人	1人	1人	0人	2人	2人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>事業所の改善計画を常に目のつく事務所内に掲示し、日頃から意識して行動する。</p> <p>職員が年度当初に立てた目標を達成するために個人で必ず研修に参加して意識を高める。</p> <p>職員会議に参加出来ない場合は、その後の会議録に必ず目を通し、情報を共有して理解を深める。</p>	<p>改善計画については常に目のつくところに掲示出来ていなかった。</p> <p>個人の研修計画については、数か月に一度は各自意識して、自主的に研修に参加することが出来た。</p> <p>会議録には必ず全員が目を通すことが出来た。</p>	<p>大変な仕事の為、素人には意見が言えないが何か役に立てばと思っている。専門職になるとどこまで理解して発言できるか決まって来る。職員は取り組みをしているという点で理解する。</p> <p>研修に参加したらそれで終わっているが学んできた事を職場で発表、伝達する事で知識が伝わる。</p> <p>地域、自治会、イベント、地域住民との連携等、介護業務に携わっていると難しいと思う。管理者、ケアマネ等、意識している者が伝えていく必要があるのではないか。利用者の在住地域まで意識がいくのは難しく、ケアプランまで反映することも難しいのではないか。利用者の主担当職員が全員に共有するだけでも意識がかわるのではないか。</p> <p>職員の人数が限られた中でミーティングの時間を確保するのは大変であるが、それでも取り組んで出来ている点が挙げられるのに「7.運営」で出来ていない点で事業所のあり方を考える余裕のない職員が大多数であった」という部分の「大多数」にひつかかった。出来ていない点の理由がないのに謙遜して書かれているのか。</p>	<p>事業所のあり方について、職員会議で半期に一度（9月、3月）は、必ず職員一人一人が意見を述べる場を持つ。</p> <p>事業所の改善計画を常に目のつく事務所内に掲示し、日頃から意識して行動する。</p>

B. 事業所のしつらえ・環境	<p>職員一人一人が居心地の良い環境作りに取り組む。</p> <p>引き続き、職員全員が日々の整理整頓、清掃を行う。</p> <p>季節感を出す飾りなど、明るく親しみやすい雰囲気を作る。</p>	<p>季節感が感じられるような壁紙を制作し、草花を飾り、居心地の良い環境作りが出来た。清掃と整理整頓については、日々掃除点検表を確認して衛生に努めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・居心地よく遊びに来させてもらっている。 ・非常によく出来ている。 ・大方「はい」にした。 ・職員は頑張っておられる。 ・環境的に良い所なので、こういう状況を続けてもらいたい。 ・いつも温かい環境で、入った瞬間にアットホームな感じがするので、良いと思う。 	<p>引き続き、職員全員が日々に整理整頓を行い、居心地の良い環境作りに取り組む。</p> <p>「認知症安心サポート相談窓口」の看板を、だんない入り口植え込みのところに、常時設置する。</p>
C. 事業所と地域のかかわり	<p>オープンデイ、行事、消防訓練、イベントを計画して、早めに回覧を回し、地域住民の方々に参加して頂けるように努力する。</p> <p>事業所の夏祭り、地域の秋の行事などを通じて、地域住民との交流の機会を作り、開かれた事業所を作る。</p>	<p>涼やかスポット、オープンデイ、消防訓練に関連して、陶芸教室、起震車の体験をお知らせして、沢山の地域の方に参加頂けた。</p> <p>また、地域の文化祭に出展させて頂き、見学に行くことが出来た。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者家族なので何でも相談している。日吉の方で「だんない」と言っても誰も知らないので認知されていない。 ・介護、認知症についての困りごとなると限られてくる。周りの方がどれだけ理解しているかは難しいので、認識を深めるのが最初であって、いきなり相談は難しい。 ・包括は相談に来られる方が多いので、包括で解決できない事をだんないに相談している。 ・資源として連携、専門職同士相談しやすい立場である ・区として運動会は雨天中止、秋祭りはお世話になった。区としての取り組みもまだまだある。 ・「事業所のスタッフは地域の行事やイベントに参加していますか」の「スタッフ」がメインなのか、なぜスタッフなのか。 ・地域密着型の施設である為、利用者だけではなく地域との連携ができるかの意味合いがあると思う。 ・認知症安心相談窓口のチラシを作成されたとの事で以前はほとんどなかつたが件数は増えたか。 ・少しずつ口コミで増えた。だんないでの嬉しかったことを近所で話されて、そこから良い評判が広がって、連絡して来られる事が増えてきていると実感している。 	<p>だんない通信を地域の回覧板で回してもらい、地域住民にだんないでの取り組みを知って頂くようにする。通信の中で行事、防災訓練等を地域住民と協力できるようにお知らせすると同時に気軽に相談できる場所であることをアピールする。</p>

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<p>内林地区だけでなく、利用者本人が住んでおられる地区的行事や資源を把握することは難しいが、社協全体、地域福祉部、包括支援部などと連携をとり、情報を共有して、利用者支援に取り組む。</p>	<p>市役所、地域福祉部、包括支援部と連携をとり、情報を共有して、利用者の支援に繋げることが出来た。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・報告がないので、それを事前に知つていればこちらでも把握出来る。全ての項目の「分からない」となっているところは報告がないから分からぬのではないか。 ・いつも「分からない」となるところはやつておられると思うが聞いていないので書けない。包括と連携していると聞いているが、利用者が地域に帰られた際、色々な背景があるが連携の会議でもアドバイス、情報提供してもらう必要がある。そうすることで、色々な方法で支援が見つけられると思う。 ・これから高齢者が増え、厳しくなるのは理解している。地域での見守りは必要である。 ・すまれている地域は民生委員、見守りはふれあい委員、区長に相談するケースもある。何かあった時は包括も連携するので利用者の暮らしを支える点について相談頂けたらと思う。 	<p>生活中で、地域の資源（病院、買い物、美容院、食事）を活かした暮らしが出来るように、また、他職種と連携しながら、工夫して支援する。</p>
E. 運営推進会議を活かした取組み	<p>引き続き、前回の改善計画に取り組む。</p> <p>運営推進会議で、施設の取り組み、課題を伝え、問題提起を行う。そうする事で地域の方と共に考え、向上する機会とする。出た意見を職員間で協議し改善に努めていく。地域の課題や取り組みに対しても施設としてどう関わっていけるか共に考える。</p>	<p>運営推進会議では事業所の取り組みや課題を伝え、意見を頂くことが出来た。会議で出た意見については、職員会議で報告し、情報を共有して運営や利用者支援について、前向きに検討することが出来た。</p> <p>地域の課題や取組みについては、積極的に関わることが出来なかつた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない・ ・地域の心配な方という部分では難しい。区内の方については把握しているが、相談までには至っていない。個人情報の関係がある。 ・運営推進会議 자체を活用しているか。 ・活用という点であれば出来ていると思う。欠席も少ない。民生委員や区長から意見が出ている。地域に対してもっと発信した方が良い点なども話し合えている。 ・運営推進会議の会議録はあるか。出席者に配布しているか。会議録に署名をしているところもある。 ・会議録はいつでも閲覧できる所に保管しておくことになっている。 ・次回は今まで配布出来ていなかった会議録を配布する。 	<p>運営推進会議会議録を運営推進委員に必ず配布する。</p> <p>運営推進会議開催後は職員会議で意見内容について話し合い、協議し改善に努める。</p>

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>防災訓練、AED の使い方、消火器の使い方、救命講習を行い、地域の方にもお知らせし、参加して頂けるようする。 防災マニュアル（火災、風水害、地震）を完成させ、地域の方にも知つて頂く。</p>	<p>AED の使い方講習については、今年度計画することが出来なかった。防災マニュアルについては、事業所として完成させたが、上長が確認中である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・だんない防災マニュアルを運営推進委員に配布するという話であったが、修正箇所があり、今年度中に配布する。 ・地域の訓練はなかったが、夏祭りに起震車に来てもらい地域住民等 100 名近くの体験者があった。 ・この夏は台風が多く、避難で利用された方が何名かいた。その都度区長にも連絡していた。消防団にも様子を見に来てもらい、お世話になった。 ・この施設は温かみがあるので評価もして頂きながら、業務を進めて下さい。 ・だんないが福祉避難所として協定は締結した。基本付き添いが必要で、部屋が空いていたらという条件付きである。 ・災害の関係で近くに農業用水があるが、ゴミ取りを 1 時間毎にしており、大丈夫な体制は区としてはしている。 ・区長、民生委員、ふれあい委員が会議に参加し、住民からの意見も出るので施設として受け入れてもらえていると思われる。 ・こんなにざっくばらんに話し合える事業所はないと思う。他の施設では意見があまりでない。だんない通信の家族からの便りの掲載で良い介護をされているのが伝わる。これは続けてほしい。楽しみにしている。 	<p>定期的に AED の使い方、消火器の使い方、救命講習など防災訓練を計画し、地域の方へ回覧板で案内し、参加して頂けるようする。</p>
----------------------------	--	--	--	---